

Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 92 号

-
- | | |
|---|-----------------------------------|
| ・発行日／2014年3月25日 | ・発行所／クリスチャンパートナーズ |
| ・事務局／〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2-7-63-111 竹澤三佳子方 | ・Tel／Fax 054-283-1721 |
| ・郵便振替口座／00150-0-134994 | ・e-mail／sunflower818@hw.tnc.ne.jp |
| | ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/ |
-

みんなで生きる

「四人の男が中風の人を運んで来た。しかし、群衆に阻まれて、イエスのもとに連れて行くことができなかったので、イエスがおられる辺りの屋根をはがして、穴をあけ、病人の寝ている床をつり降ろした。イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。

(新約聖書 マルコによる福音書2章3節～5節)

理事長 木ノ内 一雄

主イエスの伝道はガリラヤを中心としたものでしたが、その拠点にはガリラヤ湖の北にある町カファルナウムでした。主イエスのところに大勢の群衆が御言葉を聞くため、また病気を癒していただくために集まって来ました。その中に中風の人を運んで来た4人の男がいました。ところが家は人でいっぱいだったので彼らは屋根に上り、穴をあけ、病人をつり降ろしました。私たちから見ると、考えられない事ですが、当時の、いや今でも多くの国では家の造りは驚くほど簡単で、土をこねて壁を作り、屋根は木と枝を敷き、土を上を被せるだけのところがあります。雨期には雨漏りがし、また草も生えますが、さほど支障なく生活する事ができるのです。ものを置いたり休んだり、また時にそこで祈ったりもします。屋上に穴をあけても簡単に修復できるのです。

私たちが不思議に思うのは、主イエスは連れて来た4人の信仰を見て中風の人を癒されたということです。なぜ中風の人々の信仰は見なかったのでしょうか。その訳は、私たちは一人で生きているのではなく、人との繋がりの中で生きているということにあります。例えば、夫婦の一人が病めばもう一人も苦しみます。家族の一人が病めば、家族全員が苦しみます。同じことは教会にも、社会にも言えます。30年前、西カリマンタンのスラム街を訪問した時、そこに住む人々の悲惨な生活を見て涙が出ました。また数年前アフリカを訪問した時も同じように心が痛みました。私たち人間は連帯性を持っているのです。一人が苦しめば他の人も苦しみ、一人が喜べば他の人も嬉しくなります。

神は私たちの罪を赦すために人となり、十字架につかれました。人の罪を赦すためにはご自身が人にならなければなりません。人間が犯した罪は人間でなければあがなうことはできないからです。同時にそのお方は神でなければなりません。聖なる神だけが人の罪を赦すことができるからです。主イエスの死によって初めて神との霊的な交わりは回復されたのです。中風の人を連れて来た4人は中風の人と連帯して生きているのです。私たちは家族と、また世界の人たちと連帯して生きているのであって、自分だけが孤立して生きているわけではありません。私たちは「みんなで生きる」のです。

「通信」第 78 号 3 ページに紹介されたデピさんが、大学を卒業されました。高橋先生を通して、彼女の感謝の言葉がとどきましたので、稲葉夫人の訳でお届けします。

日本にいらっしゃるクリスチャン パートナーズの皆様へ
私に教育を受ける機会を与えてくださり、大学卒業までの学費の援助をしてくださって、心から感謝いたします。お陰様で 2013 年 9 月 23 日に無事卒業することができました。

ウィディヤ・ダルマ・ポンティアナック大学の経営情報学部情報科で、4 年半学びました。すべての授業で確実に学べたことは、神様が私に力を与えてくださったお蔭だと思っています。

在学中には沢山の問題や苦勞もありました。特に論文の作成中、仕上げる時は紙代やインク、フォトコピー、印刷などの費用が掛かりました。両親も一生懸命私をサポートしてくれ、毎月論文の費用と食事代を送ってくれました。

クリスチャン パートナーズから頂いた毎月の学費は、大きな力になりました。私を励まし、頑張る気持ちを与えてくれました。苦勞した論文も無事完成し、高得点で卒業できました。論文の題名は「アンジュンガン・サマリア事業の分析と計画情報システム準備と家電商品の販売」です。

在学中に沢山の援助をしてくださった支援者の皆様の上に、神様の祝福と愛がたくさんにありますように、お祈りいたします。“GOD is Good all the time.”

愛をこめて、 デピ

クリスチャン パートナーズが教師給与の支援をしていたセイダウン小学校（第 72、79 号参照）から、川を遡ったところに新しくできたスンバン分校で教鞭をとっておられるリディア・デボラ・シホタン先生からの手紙が、高橋先生を通して送られてきました。デボラ先生と、同僚のテレシア先生は二人とも ATI 神学校の卒業生で、日本からの奨学金で学んだ人たちです。彼女たちが教える生徒がスンバン分校を卒業して、インマヌエル中学校に進学できれば、私たちからの奨学金を優先的に受けられるようになるそうです。

《私は、リディア・デボラ・シホタンと申します。去年神学校を卒業し、スンバン分校の責任者として奉仕しています。昨年からの生徒数は 47 名で、教師は 3 名です。スンバン分校は 1 期目に 6 名の卒業生を送り出しましたが、中学校に進める生徒は 2 人でした。2 期目には 6 名卒業のうち 4 名が中学校に進みます。スンバン村には教育を受けていない人が多いので、その大切さを理解させるのが困難です。経済力があっても、子どもたちの教育にお金を使うことを優先させないのが実情です。

教育が子どもたちにとって最も重要だということを、親たちに理解させたいと、私たち教員は努力していますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。》





デボラ先生とテレシア先生

左端デボラ先生

1年から6年生全員と3人の教師たち



デボラ先生と担任の5, 6年生

最近のインドネシア・西カリマンタン事情 宣教師 高橋めぐみ

インドネシアはここ数年、経済成長が注目されています。インドネシア 34州のうち遅れているとされる西カリマンタン州でも、最近数年間の変化には目を見張るものがあります。

しかし森林破壊も進んでおり、特にパーム油プランテーションの大規模な開発は大きな問題です。インドネシアで森林の減少面積は、2011～2012年は年間約200万ヘクタールで、森林破壊は世界最速であるという情報もあります。私が住むアンジュンガン区も、一步奥に入ると広大な土地が見渡す限り伐採され、野焼きされています。

雨季の昨年12月には洪水が起こり、この近辺も犠牲者が多数出ました。皆が「こんな規模の洪水は今までなかった。森林伐採の結果に違いない。」と言いました。そして今年の乾季に入り1ヵ月半ほど雨が降らないと、今度は各地の井戸が干上がり始めました。皆は「やはり木がないからだ。」と言っていきます。5～6年前から警鐘は鳴らされていましたが、被害が出始めてから事の重大さに気付き、またこの問題に対して、まだまだ無力な地域住民というのが現状であると思います。

2014年3月14日

ご多忙の高橋先生に無理をお願いしてひと言お書きいただきました。 パーム油生産には日本での中性洗剤反対で石鹼の使用量が増えたことも影響していると言われていて、考えさせられます。

続ガーナプロジェクト（2012～13）報告 エイモス・バンマリ

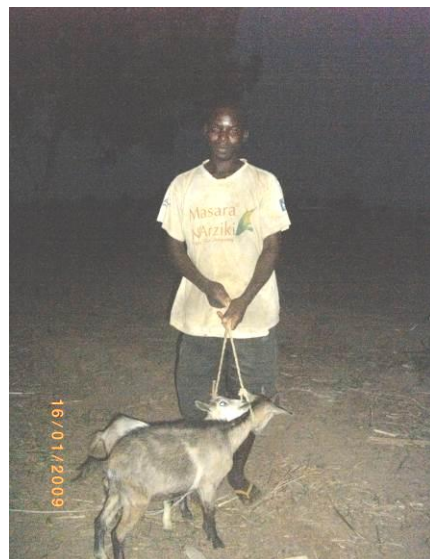
第91号2ページに続いて・・・

【達成結果】四つの地区で、キリストの福音伝道がなされ、23人が信仰に導かれました。

以下に二人の言葉を紹介します。

「わたしは家族への十分な食物や、子どもたちの学費が不足していることから、危機感を覚えておりました。今では山羊を売ることにより、お金を得ることができます。私は今まで穀物農作を季節ごとの雨に頼っており、雨が降らないと絶望していました。今では山羊支援によって、年間を通して希望が持てます。」 **セデウ ファティ**

「わたしは数か月前に始めた山羊プロジェクトによって、利益を得ています。これは、伝道団がこの地域にこの仕事を持ってきてくださったお蔭です。私は常日頃、経済的向上を目指すチームの仲間に加わりたいと思っていました。伝道団は、地域が直面する課題を浮き彫りにする努力をしてくれました。そして、その地域の貧しい人々の生計を改善させるために活動してきました。伝道団は家畜支援を通して、食糧不足の問題に焦点を当ててきました。私はこの山羊支援の一翼を担うことができうれしく思います。」 **サマタ サーカ**



私エイモス・バンマリは、プロジェクトディレクターとしてチームを代表し、クリスチャン パートナーズのご支援に対し感謝を述べさせていただきます。同時に、神様の祝福が皆様の上にあるように祈ります。また、伝道旅行の途上にある人々に主のお守りを祈ります。

(翻訳 木ノ内和美理事)

このプロジェクトのためのご支援を、ぜひお願いいたします。 支援金の額・時期はご自由にお決めください。

【理事会報告】第181回理事会は2014年2月17日(月)一ツ橋学会館で開催。2013年11、12月、2014年1月度会計報告承認。報告書の書き方などを協議。「通信」第92号の記事は、ガーナプロジェクトの報告の後半、高橋宣教師からの奨学生の現状報告と西カリマンタン情勢、デビさん卒業挨拶などで、3月末に発行予定。田園調布教会員有志によるグループでのSAC支援を3月末で終了し、個人の奨学金支援に切り替える。創立30周年記念として、高橋宣教師が帰国された時、講演をお願いするなど。西カリマンタンにおける奨学金配布の将来について理事長が高橋宣教師と協議する。新しく理事になってくださる方を探す。

第182回理事会は2014年5月12日(月)一ツ橋学会館で開催予定。

〈編集後記〉寒さ厳しかったこの冬、雪に悩まされたお方もあったことと案じます。3月5日の『灰の水曜日』からレントが始まりました。4月20日の復活日まで、心を静めて今何をすべきか、何が求められているかを考えたいと思います。

皆様のところに暖かい春が花々とともに届きますように。

鳥海百合子